

テストも終わった。気持ちを切り替えるために、今回は琉球新報に掲載された「高校球児への手紙」から2人の野球選手（今永昇太、山田哲人）の話を紹介（一部引用）する。この話は、本校のキャッチフレーズである「**気づき、考え、実行し、振り返るG1生**」にも関係するので、野球部や部活動生、そうでない人も目を通してほしい。

今永昇太投手（DeNA）については、次のように紹介されている。「球界一の切れと称される速球を武器に昨季は自己最多の13勝を挙げ、プレミア12で日本代表入り」。まずは、今永投手の話。

北筑は勉強に厳しいルールがありました。月水金で数学、英単語、古典と朝のテストがあり、**赤点を取れば放課後に追試**。練習に遅れると怒られるので、なんとしても赤点阻止でした。校門をくぐる完全下校も19時半と決まっていて、**授業が7限まで**である火木は1時間半ほどしか練習できません。

大事にしたのは**練習の根拠を持つこと**。公立校の能力のない選手だった僕は、多くの技術を着実に身に付けていく必要がありました。漠然と言われた練習を受動的にこなすのではなく、**必要なことを逆算しプランに沿って段階を踏む**。考えて能動的に取り組む。365日積み重ねたら**雲泥の差**になると意識しました。

例えば僕以外にも投手がいるのでブルペンブルペンは占領できません。練習前に**プランニング**をして今日はこの球の練習、明日はこの球と積み上げていく。内角直球をしっかりと投げられたら、そこから曲げる。次は低く、など。多く投げ込むより一球一球を丁寧に投げる作業を大事にしました。それは今も同じで、ブルペンでも常に**試合を想定する習慣**として生きています。



人生は選択の連続。この状況に前を向いてとは言えませんが、5年、10年後に自分がやってきたことは間違いじゃない、**正解だったと思える今**にしてほしいと思います。

次に紹介するのは、山田哲人内野手（ヤクルト）。これまでトリプルスリー（打率3割、30本塁打、30盗塁）を史上初めて複数回達成した選手だ。

高校で学んだのは、実は**日常生活が野球につながる**ことです。例えば靴を並べる、たまっているゴミを出す。当たり前ですが履正社ではその小さいことに**気づき、即座に動く**ことが求められました。続けると視野が広がってくる。それが**試合で隙を生まない準備**、相手チームの弱点や投手の傾向を**観察する習慣**となり、今も生きています。

履正社には寮がなく、帰りはバスの時間がある。**限られた時間を無駄にしない**ためには一つ一つ練習を自分で考えて行う必要がありました。だから吸収も大事。週1度のミーティングは戦略や打撃の考え方などレベルの高い内容でした。それも**授業を真面目に聞く習慣**があると**指導者の話がスッと**入ってくる。そのために必要な取組が考えられる。小中学校から言われてきた、その意味や大切さを理解しました。



夢の舞台が中止となり球児やサポートする方々には掛ける言葉も見つかりません。でも**今までの努力、今の気持ちが無駄になることはありません**。きっと**将来につながるもの**があると思います。

以前に「頭のいい人」として、「日々の生活の中で、何が課題であるか、どのようにすればより良くなるのかを自分の頭で考えて、**試行錯誤し、課題を正しく解決**することができる力」を取り上げた。今回、取り上げた2人の野球選手も「頭のいい人」に当てはまると言えよう。

本校のキャッチフレーズである「**気づき、考え、実行し、振り返るG1生**」も、皆さんが「頭がよくなる」方法の一つである。日頃から意識して行動しよう！